

プラネタリウム特別講演会（未来の科学者育成プログラム・科学部セミナー共同開催）

日時：令和5年2月11日（祝・土）13：30～15：00 場所：千葉市科学館プラネタリウム

参加者：育プロ生7名 科学部21名 その他一般78名：合計106名

講師：千葉大学ハドロン宇宙国際研究センター所長 吉田滋先生



吉田先生



科学館プラネタリウムに

100名以上の人が集まりました

科学館展示リニューアルを記念して、プラネタリウムにて特別講演会を行いました。千葉大学ハドロン宇宙国際研究センターのニュートリノ天文学研究部門は、国際共同プロジェクトである、南極でのニュートリノ観測「アイスキューブ (IceCube) 実験」に参加している日本で唯一の研究機関です。目に見えない不思議な素粒子であるニュートリノについて、南極点での360°カメラ映像や上空の星空をプラネタリウムに映し出しながら、講演をいただきました。中高生でも分かるようにお話しいただいたこともあり、講演後にはたくさんの質問が出て、吉田先生はその質問に丁寧に答えていました。



講演後は質問がたくさん出ました



展示物の解説も

プラネタリウム講演会終了後には、科学館10階の展示物「アイスキューブ (IceCube)」の前に集まり、さらに詳しく展示物の解説をしていただきました。講演会後にも関わらず、たくさんの人達が集まり、追加の質問がどんどん出てきて、会場は大いに盛り上がりました。

【受講生の感想】

- プラネタリウムを見ながら話を聞いて知らなかったことがたくさん分かった。人生についても考えることができた。努力すれば、物理学者になれるような気がした。
- プラネタリウムを使った臨場感ある講演でした。ニュートリノを止めるには地球1万個を並べないといけないと聞き、とても驚きました。研究者に求められる資質を教えていただいたので、心に刻んでいきます。
- IceCubeの部分稼働の時に、成果が出なくても楽観的であったのは、予想で来ていたからだと聞き、悲観的にならずに、楽観的にいようと思いました。改めて科学の美しさと素晴らしさを感じました。
- すごい説明が分かりやすく面白かったです。ニュートリノについて興味関心がわきました。吉田先生のエピソードを聞いて、諦めないことが大切なんだと思いました。
- IceCubeプロジェクトの大きさとその大変さを実感できました。超高エネルギーのニュートリノの発見が、世界で初めてで、とてもすごいと思いました。先生の人生にも失敗やコツコツと努力を積み上げていた時期があることを知り、自分に置き換えても、先生のように粘り強く行いたいです。
- 宇宙線を霧箱を使うことで、目視できるのに驚いた。ビックバンを見たい。
- これまでは科学館のIceCubeの展示を見たことはありましたが、講演を聞いて、青い光の意味がよく理解できました。南極で実験を行った理由もよく分かりました。
- 本当の天文学の観察や実験にはすごい時間がかかることが分かった。今回、講座に参加したことで、将来、科学者になることと、千葉大に受験したいという思いになる、きっかけになりました。